

平成三十一年度 一般選抜(前期日程)

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、表紙を含めて4ページあります。また解答用紙2枚と下書き用紙2枚が配付されています。試験中に問題冊子や解答用紙、下書き用紙の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入しなさい。
 - (1) 受験番号欄
 - (2) 氏名欄
- 4 氏名、受験番号が正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
- 5 試験終了後、問題冊子、下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

長寿社会の光と陰

対応を分ける必要性

(前略)

人生八〇年時代といわれたのはつい先ごろだが、現状では元気な後期高齢者もしいに増えており、現実には人生九〇年時代にせまりつつある感が深い。すでに述べたように、二〇〇八年の高齢化率は二二・一％で、六五歳以上人口は膨大な数に達している。

これらの高齢者がすべて元気であるわけではなく、病気にかかったり、障害をもつていて、療養や介護を必要とする高齢者も少なからずいる。世の中のこととは、すべて光と陰、表と裏といった関係があり、強い部分があれば弱い部分もある。光の部分にはなやかで希望に満ちているが、陰の部分は暗く苦悩に沈んでいる。長寿社会にも、このような光の部分と陰の部分の二面性があり、このことは、長寿社会を理解し、対応を考える場合、重要なポイントである。

ところが、ややもすると、**A**これらが混同され、あいまいな形でとりあつかわれやすいため、さまざまな誤解が生じている。

(中略)

高齢者はいつまでも健康を保ちながら元気で生活するわけではなく、やがて死をむかえ、社会から消えていく。元気で活動的であっても、いつかは病気にかかったり、障害をもつたりして、介護・ケアを必要とすることになる。そのていどは人それぞれで異なり、一定ではない。したがって、長寿社会の光の部分と陰の部分とは、流動的で、うつりかわっていく。そして、高齢者グループは、つきにつく高齢者予備軍と入れかわっていくので、その点からも高齢者グループはけっして恒常的なものでなく、中身はたえず変動しているのである。

光の部分を大きくする対策

長寿社会を生きていくためには、高齢者自身の心がまえが第一に大切で、それなくしては、とうていこのきびしい現実を乗り切ることができない。元気で、活動的である時期には、サクセスフル・エイジングをめざし、**B**自助・互助による努力が実することはたしかであるが、生身である以上、どこで、どんなことで挫折するかわからない。つまり、個人の立場でも、光の部分が多い時期から、陰の部分が目立つ時期へのうつりかわりがあるわけで、陰の部分に対しては自助を支えるため、よりいっそう互助や公助が必要になるであろう。

社会全体としては、できるだけ陰の部分を小さくし、光の部分を大きくする対策が必要で

ある。陰の部分への対策は、国全体として、さまざまな角度からとりあげられ、施策を推進しているが、光の部分については、まだ十分とはいえない。それには、**C**現在の高齢者の光の部分についてどうするかという観点も大切であるが、若い世代についての健康対策も重要である。

(中略)

新しいコミュニティをつくる

バリアフリーの街づくり

長寿社会をむかえ、各地で高齢者を対象にした新しいコミュニティづくりが試みられ、注目されている。

高齢者ほど、個人差に富むものはない。それまでの生活のありかたが臓器・組織の機能に影響を与え、長いあいだにちがいがあらわれてくる。職業による体の使いかた、動かしかたなどによって、身体の機能に個体差があらわれるのだ。また、考えかた、もの見かた、理解のしかた、判断のしかた、創造力などにもかなりの個人差があらわれる。

したがって、長寿社会をむかえ、このような**D**多彩で個性に富んだ高齢者にとって、どんな形の社会や街がもっとも好ましいかといったことが真剣に考えられる必要がある。

最近、こうした点を考慮に入れながら、高齢者のかかえる不安やさまざまな生活上の問題点に対応しうるような、新しい街づくりが実践にうつされつつある。どのようなものかいいのかについては、まだはっきりした答えがあるわけではなく、高齢者のもつ疑問やニーズに答える形で街づくりが考えられている。

バリアフリーは、高齢者一般がかかえている身体的諸機能の低下や転倒防止などの観点から、かなり共通的なニーズでもあり、とりいれられるべきである。

バリアフリーの考えかたは、身体的なことのみならず、心の問題にもあてはまる。ストレスの過剰は大きなバリアとなるし、たとえば最近のファーストライフは大きな負荷となっている。それをどのようにして克服していくのか、どんな工夫が必要なのか、これからの問題でもあろう。

一方で、バリアフリーを徹底してしまうと、どういうことになるのか。住居のバリアフリーはたしかにのぞましいが、住居外の生活様式がすべて、バリアフリーになっているわけではない。順次バリアフリー化されていくにしても、かなりの時間がかかる。また、**E**すべてバリアフリーにしてしまう方がいいのかについても、考えてみる必要がある。

(祖父江逸郎、『長寿を科学する』、岩波新書、二〇〇九年から抜粋、一部改変)

問1 傍線部**A**について、150字以内で説明しなさい。なお、「さまざまな誤解」については具体的に推察して述べなさい。

問2 傍線部**B**「自助」に必要なこととして、著者が述べている部分を10字で抜き出しなさい。

問3 傍線部**C**について、著者がそのように主張する理由を推察して50字以内で述べなさい。

問4 傍線部**D**について、あなたが考える「好ましい社会や街」を300字以内で論じなさい。

問5 傍線部**E**に関して、高齢者のバリアフリーにどのように向き合っていけばよいのか、これから保健医療を学ぼうとするあなたの考えを300字以内で論じなさい。

解答例と採点のポイント

問1

- 「これら」つまり光の部分と陰の部分の両方を明確に説明しているか。
- あいまいな形でとりあつかわれ、さまざまな誤解が生じていることを、様々な誤解の具体例を含めて明確に説明しているか。
をポイントに採点しています。

問2

「高齢者自身の心がまえ」を正解とし、「元気で、活動的である」「光の部分を大きくする」などは一部減点して採点します。

問3

解答例として、「若い世代に対して健康対策を行えば、将来彼らが高齢者になっても健康を維持していくことが可能となるから。」とします。同趣旨の内容であれば、明確かつ妥当な推察をしているか、という観点で採点します。

問4

高齢者の個別性・多様性に着目しているか、考えを論理的・具体的に述べているか、という観点で採点しています。

問5

- バリアフリーの必要性を述べているか。
- バリアフリーの弊害（バリアがあることの効果）を述べているか。
- 保健医療を学ぶ学生として自分の意志や考えを述べているか。
という観点で採点しています。